育成 モノづくり人材 Vol. 50

山形県立米沢工業高校

低炭素化技術で独自プロ

今年で創立120周年を迎える山形県立米沢工業高校。全国で6番目に設置された工業高校で、創立時から地域産業の振興を担うモノづくり人材の育成に取り組んできた。これまでに世の中に送り出した卒業生は約2万6000人。卒業生のネットワークは全国に広がり、OB会の支部は計14ある。10月には創立120周年と定時制設置70周年の記念式典を開く。

全日制の現在の生徒数は機械生産類など3類・5学科で約650人。2015年度の進路状況は全体で約70%が就職。このうち約6割が県内企業に就職した。横戸隆校長は「企業の期待に応えられる教育に力を入れている」と社会につながる学びに重点を置く。

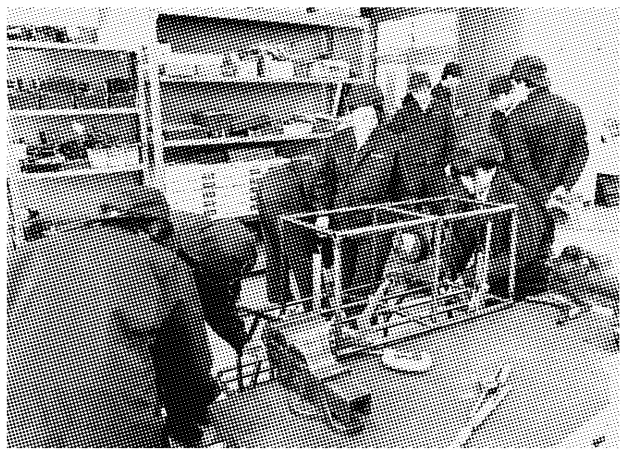
横戸校長

【DATA】▷校長＝横戸隆氏▷所在地＝山形県米沢市▷学科編成＝機械科、生産デザイン科、電気情報科、環境工学科、建築科、専攻科▷生徒数＝全日制約650人、定時制45人、専攻科7人▷主要設備＝旋盤、フライス盤、CAD、3Dプリンターなど▷主な進路＝トヨタ自動車、ヤマザキマザック、東京ガス、東北電力、東京急行電鉄、日産自動車、かわでん、セゾンファクトリー、タカハタ電子、山形大学など

同校の大きな特徴は、エネルギーをテーマとした〝米工版〟のモノづくりプロジェクトを展開している点だ。08―10年度に実施した「ゼロエミッションプロジェクト」では、各科の専門性を生かして低炭素社会を目指す研究を進め、電気自動車（EV）やマイクロ風力発電装置などを自治体・企業などの協力を得て作製した。

高校生が手作りで完成させたEV1号機は、11年に東京・有明の東京ビッグサイトで行われた「次世代自動車展」に出展。ボディーの原型製作からミッション部品の製作など斬新な車として注目された。

これに続いて11年度から取り組んだ「米工版スマートグリットへの挑戦」では、太陽の動きに合わせて建物自体が回転し、屋根上のソーラーパネルが高効率に発電する「スマートエコハウス」や、校舎脇の用水路に設置し、エコハウスと「エコ車庫」に送電する「マイクロ水力発電装置」などを製作。また



社会のニーズをとらえた実践的な技術者を育む実習

エコ車庫から電気を得る方式を採用し、乗降しやすいドアやスマートフォンでのドア開閉など乗りやすさを追求したEV2号機も3年かけて完成させた。

実践的な技術者を育てる教育に力を入れる米工。モノづくりの先にある「コトづくり」にも目を向ける。東北地区の学生による新事業提案コンテスト「第12回キャンパスベンチャーグランプリ東北」では専攻科のチームが最優秀賞に輝いた。横戸校長は「専攻科は実践力を磨くことに力を入れている」と話す。

（山形支局長・大矢修一）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社